

<S-17> *Clostridium perfringens* 鶏由来株の α 毒素遺伝子内に認められた外来性
遺伝子断片の解析

○三澤尚明¹、馬 夢琳¹、大谷 郁²、清水 徹²

(1;宮崎大・農・獣医公衆衛生学、2;金沢大・院・感染制御学)

Clostridium perfringens は広く自然界に常在し、ヒトや家畜・家禽の腸炎の原因となる。今回我々は、健康な鶏の腸内容物から分離した約100株の *C. perfringens* からDNAを抽出し、 α 毒素遺伝子 (*cpa*) をPCRで増幅したところ、1株に通常よりも大きいサイズの遺伝子を検出した。塩基配列を決定したところ、*cpa* 遺伝子のORF内に834bpのフラグメントが挿入されていた。この挿入配列は、*Bacillus cereus*の保有するプラスミドと断片的なホモロジーを示したが、蛋白としては翻訳できなかった。この株は他の分離株と同様の卵黄反応を示した。さらにこの株の *cpa* 遺伝子を発現ベクターにクローニングして大腸菌内で発現させたところ、形質転換体においても卵黄反応が認められた。